

地本ミズバショウ生育地に育成したハンノキの生長

石 沢 進

胎内市地本におけるミズバショウの分布や生育状況を調べ、その群生地の維持や増殖についてまとめたことがある（今井・石沢 1992）。この生育地では、ハンノキ群落とヨシ群落が主な植生で、ハンノキの下層にミズバショウが繁茂し、ヨシ群落には、ミズバショウの密度が低いか生育していない。ヨシ群落が繁茂すると、ミズバショウは衰退する傾向があるようにみられた。ハンノキを繁茂させ、日光をさけて日陰になるような環境条件が、ミズバショウの生育によいと推定した。

その結果から、ハンノキを育て、その下にミズバショウを繁茂させることが良い方法と考えて実行してみた。胎内市地本のミズバショウ群生地の周辺に1990年頃にハンノキの育成を試みた。育成地は、図に示したように道路脇でミズバショウが生育していない場所であった。具体的にはそこに生えているヨシ刈り取って埋土種子を発芽させて樹林の形成させることを試みた。日当たりのよい所では、ヨシが繁茂しているので、ヨシを刈り取って地面に太陽光線が当たるように、何度もヨシを刈り取りを行っている。ハンノキの埋土種子が発芽する。その幼苗を大切に育てて日陰を作ることにした。年間を通じてヨシを刈り取ることで、多くの芽生えがみられ、それを大きくする試みを3年ほど継続して行い、ヨシよりも樹高が高くなるまでに育てた。ヨシよりも背丈が高くなってから、数年にわたって現地を訪れていたが、その後は訪問がまれであった。

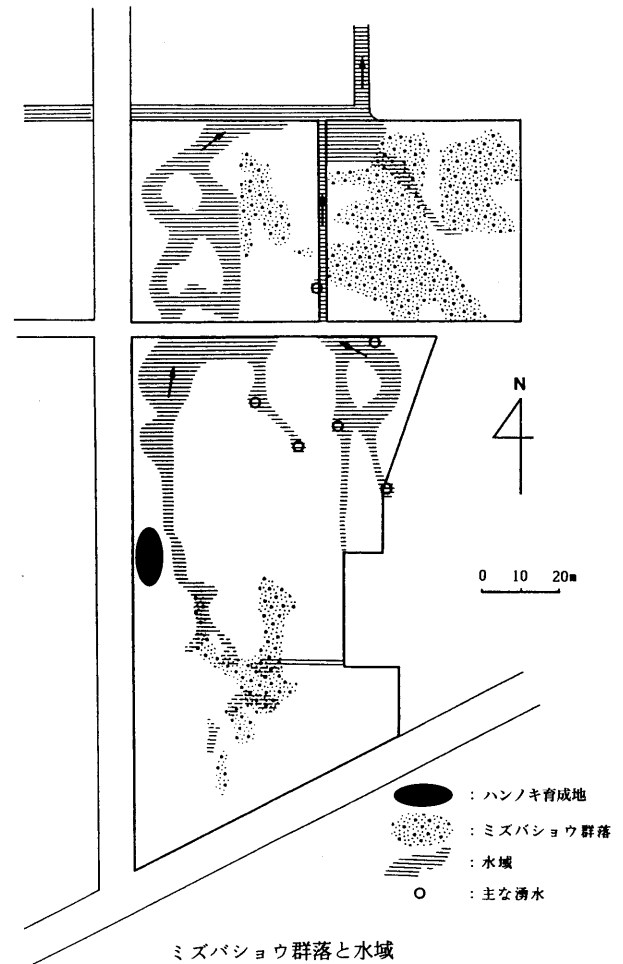


図 ミズバショウ群落と水域（1992）に「ハンノキ樹林育成位置追加」

2010年に現地を訪れてみたら、育てたハンノキが成長して高さ5m以上に成長し、26本も育ち小さな樹林になっていた（写真1・2）。その樹の大きさを幹周で測定した結果が下表のようなものである（2010年11月23日に調査）。

表 ハンノキの樹の幹周と本数

樹の幹周 cm	11 - 20	21 - 30	31 - 40	41 - 50	51 - 60	61 - 70	71 - 80	
樹の本数	5	4	3	4	3	5	2	合計 26本

樹の大きさは、大小様々である（写真3）が、平均42.3cm、最小約15cm、最大75cmであった（写真4）。ミズバショウ群生地に、埋土種子から18年で、平均幹周約42cmのハンノキ樹林を育てることが可能である。他所で育てたハンノキの苗を植栽しないで、現地の成木由来の苗を育てることがこの地の生態系の保存に大切であろう。

近年のミズバショウの生育状況がどのように推移しているか不明であるが、胎内市地本では、ミズバショウ生育

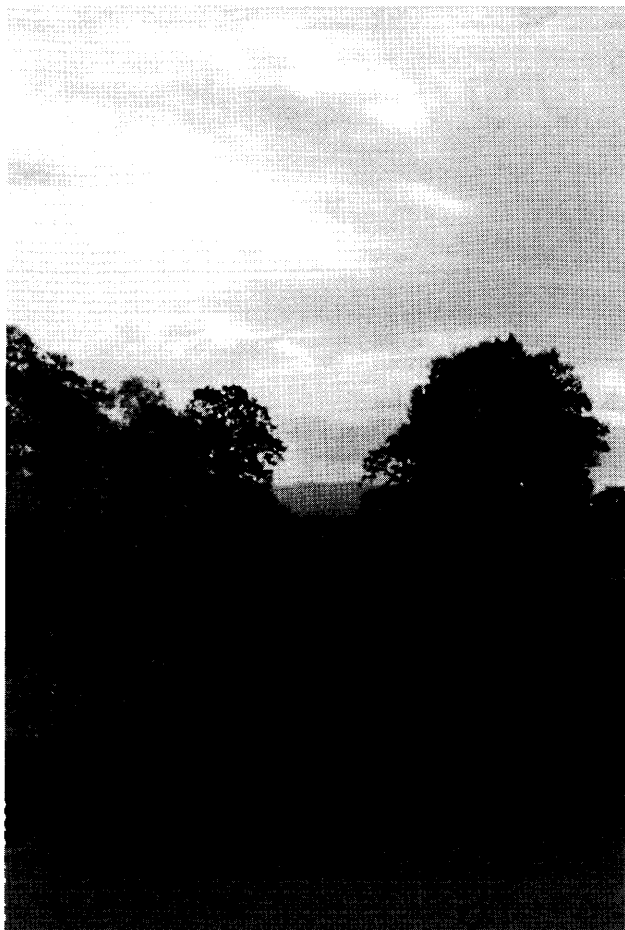


写真1 成立した樹林



写真2 成立した樹林（拡大）



写真3 大小様々な幹周の樹林

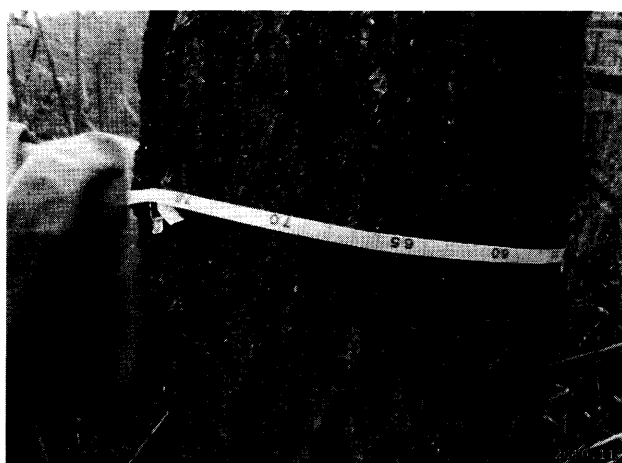


写真4 最大に成長した樹（幹周 75cm）

地周辺のヨシを刈り取って埋土種子を発芽させてハンノキ樹林を育ててミズバショウの保護に当たることが重要であると思われる。

[文献]

今井 卓・石沢 進 1992 新潟県中条町地本ミズバショウ生育状況と植物相 :3-32. 新潟県北蒲原郡中条町教育委員会

[中条のミズバショウ紹介]

橋本 春雄（平成5年） 中条町（新潟県） 日本列島花 maps 花の旅「ミズバショウ」：46 - 49 北隆館
「稀な環境で育つ中条のミズバショウ」として記録